

かほどり  
容鳥



かほどり まな  
容鳥の間無くしば鳴く春の野の

くさね しげ  
草根の繁き恋もするかも

卷十一 一八九八 作者未詳

歌意 かおどりが絶えず鳴きしきる春の野の草の繁みさながらの、恋を私はしている

容鳥はいまだに諸説あって未詳の鳥です。

「∴山辺には 桜花散り 容鳥の間鳴くしば鳴く 春の野に すみれを摘むと…」 + 七三九七三

桜が咲いているので、この時期すでにさえずっているのは留鳥です。容鳥の歌はの音。共通しているのは「しば鳴く」。他の歌には「止めば継がる」もあります。容にはかたちの意味の外に「飛び翔がる」という意味もあります。

以上から推測される容鳥はヒバリです。